

災害に強いまちづくり、 防災、減災の推進

地球温暖化や異常気象と言われて久しい昨今ですが、昨年各地で記録的な豪雨や竜巻が猛威をふるい、土砂崩れや河川の氾濫による大規模な災害が発生しました。以前と比べ災害の発生頻度は高まり、災害の規模も大きくなってきたように感じます。

本市では、東日本大震災以後、津波避難タワー設置や緊急避難路整備、避難路誘導灯整備などハード面の整備に加え、津波避難ビルの指定や避難地避難施設整備費補助金の新設などソフト面での対策も講じてきました。

しかしながら、津波による人的被害を軽減するためには、なによりも市民の皆さまの自助が基本になり、日ごろの備えが最も大切です。防災講演会や防災訓練への積極的な参加をお願いします。

御前崎港と 再生可能エネルギーの推進

御前崎港のコンテナ貨物の取扱量は、平成19年度に約5万TEU（20フィートコンテナ1個が1TEU）ありましたが、長引く円高や株安による経済の低迷や東日本大震災の影響を受け、昨年度は3万6000TEUまで落ち込みました。

現在、少しずつ回復の兆しを見せておりますが、荷主企業の海外シフト等により相変わらず厳しい状況にあります。

めまぐるしく変化する物流ですが、荷主に安心して利用してもらえるような港湾づくりや、輸入貨物を増やして、輸出入バランスが良くなるよう、今後とも自ら先に立ちポートセールス活動に努めていきます。

静岡県では、安全・安心で持続可能なエネルギー系の構築を目指し、豊かな自然資源を生かしたエネルギーの地産地消を推進するとして、御前崎港の約3ヶ所沖合に県内初となる洋上風力発電用の風車設置を決めました。本年度末から風車を設置する事業者の公募を始め、発電を開始できるのは平成30年ごろになる見通しです。

昨年末に示された総合エネルギー調査会基本政策分科会による「エネルギー基本計画」には、安定供給や環境負荷低減などにエネルギー政策の基本的視点をおく中で、風力発電は発電コストも火力発電並みであり経済性も確保できる可能性のあるエネルギー源と位置付けられています。

こうした、環境に負荷をかけないエネルギーの推進は、地球温暖化の影響といわれている大型台風や爆弾低気圧の発生を抑制できる、地球規模での取り組みの一つです。

「道の駅 風のマルシェ 御前崎」 オープン

現在、高松地区の国道150号沿いに建設中の農業振興拠点施設「道の駅 風のマルシェ御前崎」が本年4月にいよいよオープンします。

全体として、常に風を感じさせる御前崎市をイメージしたデザインを取り入れ、特に施設の外観は南フランスの海岸地帯をイメージした設計となっています。

御前崎市農業の活性化の拠点となる本施設は、地域住民、農家、観光客の「買いたい」、「楽しみたい」、「新しいことをしたい」、「知りたい」のニーズを満足させ、都市農村間の交流拠点としての機能、専門的視点から農家を支援する機能と観光案内・休憩施設としての機能を併せ持ちます。

また、隣接する市民農園では、野菜などの栽培を通じ農業に対する理解を深めることができます。

これら多彩な機能をフルに活用して、地域農産物の6次産業化・地域ブランド化を推進し、市内農業の振興と活性化を図りたいと考えています。

御前崎市制10周年を迎え

本年は「午（うま）年」です。時刻でいう「午の刻」は現在の正午を指します。それまで日の光を東から浴びながら時を刻んできたものが、午の刻から日の差す方向が西へと変化する、ターニングポイントが午の刻となります。

本年は、市制施行10周年を迎える節目の年であり、

今まで御前崎市の発展のためご尽力いただきました市民の皆さまや各種団体の皆さまに感謝するとともに、本年をターニングポイントとして、これからの10年、20年先を御前崎市に「住んで良かった」、「住んでみたい」と思っていただけのような魅力あふれるまちにしていくなため、地域の皆さまとともに元氣な御前崎市を内外に発信していきたいと思っております。

本年も明るく住みよい安全なまちづくりにまい進していく覚悟でございますので、市民の皆さまのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます、年頭のごあいさついたします。